

聖なる魔性。

モリエールを虜にし、  
ラシーヌは心を捧げた。  
として王はその足元にひざまづいた。



Marquise



Gros René



Molière



Racine



Louis XIV

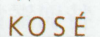
ソフィー・マルソー  
女優マルキーズ

ベルナール・ジロドー／ランベール・ウィルソン／パトリック・ティムシット／ティエリー・レルミット

監督:ヴェラ・ベルモン / 音楽:ジョルジ・サヴァール / 脚本:ジャン＝フランソワ・ジュスラン、ヴェラ・ベルモン / 脚色:ヴェラ・ベルモン、ジェラルド・モルティエ / 撮影:ジャン＝マリー・ドゥルージュ / 美術:ジャン＝クワランタ / 衣裳:オルガ・ベルルーティ

1997年 / カラー / フランス＝イタリア＝スイス＝スペイン合作 / オリジナル・サウンド・トラック:ホリグラム・IMS / 提供:関西テレビ放送、セテラ / 配給:セテラ

Line Coproduction STEPHAN FILMS-FRANCES3 CINEMA-AMLF Paris-3EMME Italie-ALHENA Suisse-MULTIVIDEO Espagne





# こんな女性が実際にいたなんて… “マルキーズ”はまさに女優の理想像

女優 ●  
**涼風真世**

でしょうね。喜劇役者は悲劇は出来ないってことを覆したのも、この時代彼女が初めてだったんじゃないかしら。今までこれだけ見事に女優を演じ、女として生きた人はいないんじゃないかって思います。そのマルキーズを演じるソフィー・マルソーが、すばらしかったですね。『ラブーム』頃のかわいい女の子が、いつの間にこんな“女”を演じられる立派な女優になったのになって、私にとって驚きであるとともに、いい刺激になります。踊り子から女優へ、楽屋裏も含めて、心の中を見事に演じきっていて、フランスを代表する大女優の誕生を感じました。

面白く見所がいっぱい、いろんな方に観ていただきたい作品です。



マルキーズという女性の存在をこの映画で初めて知りました。よく「役者は舞台の上で死ぬるのが一番」ということを耳にしますが、その言葉どおり“女優”として生きて“女優”として死んでゆく、そういう人が実在したということに、ひとつのショックをおぼえました。あんなふうに生きられたらって、私も同じ女優としてうらやましく感じます。

彼女は決して男の人を踏み台にしての上がっていったのではなく、心から人を愛せる人だったからこそ、あそこまでの成功を取めることが出来たん

## その微笑みが歴史を変えた。

### 大劇作家モリエールとラシーヌに愛され、ルイ14世の寵愛を受けた実在の女性、マルキーズ

人生を欲望のままに情熱的に生きたフランス演劇界伝説の女優、マルキーズ・ド・エパルク。17世紀フランスを代表する二大劇作家モリエールとラシーヌに愛され、小さな町の踊り子から一躍大スターへと自らの運命を切り開きその生涯を“女優”として生きた実在の女性である——。リヨンの貧しい町に類稀な美しさを持つマルキーズという踊り子がいた。雨の中、両親の店の客引きのため肌もあらわに踊る彼女に、喜劇作家モリエールの目は釘づけになった。彼の率いる劇団に誘われ、女優になる夢を抱いてパリへ渡ったマルキーズを待ち受けていたのは、時代の偉大な芸術家たちの称賛だった。マルキーズの美しさは男たちの心をことごとく捕らえ、権力の頂点を極めた国王ルイ14世までもがその虜となった。そんな中、彼女は若き劇作家ラシーヌと激しい恋におちる。それはマルキーズに女優としての大きな成功と波乱に満ちた人生の幕切れをもたらしたのだった……。

### 真のスター女優誕生。 現代のマルキーズ、ソフィー・マルソー

舞台上に生き舞台に散った波乱の人生を送った女優マルキーズ役に「プレイバート」『愛のめぐりあい』のソフィー・マルソー。貪欲に自らの夢と信念を貫いたマルキーズ役には、今のフランスには彼女以外に考えられない。情熱的で挑発的な演技により、伝説の女優に生命を吹き込み、その眩しいほどの魅力は彼女が遂にスター女優として花開いたことを証明している。

### フランス映画界の 人気スター達が勢ぞろい

喜劇作家モリエールには実力派「リディキュール」のベルナル・ジロドー、悲劇作家ラシーヌにはフランスの貴

公子ランベール・ウィルソン。歌手としても活躍中で97年12月には日本でのコンサートが行われたことも話題である。またルイ14世には『タンゴ』のティエリー・レルミット、その他『ベタル・ドゥース』のバトリック・ティムシット等、豪華スターの共演も大きな見どころだ。



### 『カストラート』のスタッフ最新作

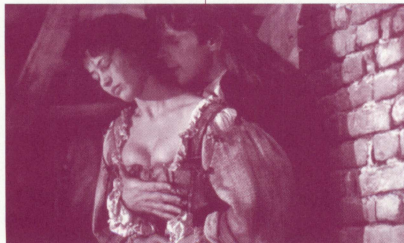
『カストラート』で世界的大ヒットを取めた製作チームが再び組んだ本作は撮影当初から大きな話題を呼び、フランス芸術の絶頂期17世紀の演劇家の面白さを現代感覚で魅了させた。また特筆すべきは音楽。バロック音楽演奏家の第一人者であるジョルディ・サヴァールが、リュリやマレの楽曲をアレンジし、『めぐり逢う朝』を凌ぐ話題のサウンドトラックを提供している。豪華キャスト・スタッフの結集による「女優マルキーズ」は製作費20億円をかけた、フランス、イタリア、スイス、スペイン4か国合作によるスベクタクル・ロマンである。

## 女優マルキーズ ソフィー・マルソー

ベルナル・ジロドー / ランベール・ウィルソン  
バトリック・ティムシット / ティエリー・レルミット

製作・監督・脚本: ヴラベルモン「カストラート」  
美術: ジャンニクワランタ「眺めのいい部屋」「カストラート」

衣装: オルガベルルーティ「カストラート」  
1997年 / フランス映画 / 2時間 / カラー / [DOLBY SURROUND] シネマスコープ  
提供: 関西テレビ放送 / セテラ 配給: セテラ



# 3月ロードショー!

特別鑑賞券1500円好評発売中 当日料金1800円(税込)

お立ち見及び上映開始後の入場はできません。前日迄に混雑状況をご確認の上、お出かけ下さい。

定員制・入替制

Bunkamura 03  
ル・シネマ (3477)  
9264

Bunkamuraを支えるオフィシャルサプライヤー

HITACHI NEC 三菱電機 TOSHIBA



●お問い合わせ  
Bunkamura 03-3477-9264